

『2020 年コンテナ港湾生産性指数 (CPPI)』で 横浜港が世界一獲得！

2021 年 5 月 5 日、世界銀行が調査会社 IHS マーケットと共同で開発した『2020 年コンテナ港湾生産性指数 (CPPI: Container Port Productivity Index 2020)』において、横浜港が世界一と発表されました。

発表資料によると、CPPI とは、コンテナ港湾のパフォーマンスを測る指標で、船の位置情報である AIS データ等を使い、船のサイズ毎にその経済性を加味し、寄港船の荷役効率、沖待ちも含む入港から荷役後の離岸までの総滞在時間の実績からスコアを算出し、コンテナ港湾の効率性を評価したものです。

コンテナ港湾の生産性は港湾によって大きな差があり、例えば世界最高水準の横浜港ではコンテナ 1 個の荷役にかかる時間が平均 1.1 分のところ、他の港湾では平均 3.6 分と 3 倍以上かかる場所もありますが、この CPPI は、それぞれ規模の異なる世界のコンテナ港湾の生産性を、統一された基準で比較できるよう開発されたものです。

【ご参考】世界銀行による発表記事（英語のみ）

<https://www.worldbank.org/en/news/press-release/2021/05/05/asian-ports-dominate-global-container-port-performance-index>

＜ 当該レポートに対する横浜川崎国際港湾(株) 人見社長コメント ＞

別紙のとおり

お問合せ先

横浜川崎国際港湾(株)企画部長 鈴木健之 TEL: 045-680-6582 FAX:045-680-6637